



時効の話

11月29日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

11月29日のおはなし「時効の話」

「時効だから話しちゃいますけどね」と男が言う。

ああまたか、とあなたは思う。思うが口には出さない。

「先月の異臭騒ぎ、あれ、実はあたしなんですよ」

けっけっけと嬉しそうに笑いながら男が話します。先月の話がどうして時効になるのよと、あなたは怒鳴りつけたい気分になるが、それでも何も言わない。沈黙を守る。

思えば男はいつもこうだった。騒ぎを起こしたり、迷惑をかけたり、ことさらに相手の警戒心を引き起こすようなことをしたり、とにかく、いつも何かしら人が鼻白むようなことをしでかしては、それを自慢げに語っていた。飲んでいて喧嘩をするなんて日常茶飯事、2ちゃんねるに脅迫すれすれの書き込みをして駅や空港を混乱に陥れたり、小学生の女の子に声をかけて不審者騒ぎを起こしたり。

そして、まるっきり時効でも何でも無いようなタイミングでそのことを話す。「時効だから話しちゃいますけどね」と。あなたは最初そういう男の無茶なやり方に興味を引かれた。いや、興味を引かれたなんて言い方では不十分だ。何か特別な人に出会ったと思い、強く惹きつけられた。いまから思えばつまらない軽犯罪者でしかないのに、最初はとんでもない悪党に出会ったと思いこんだ。現実ではありえないような、ピカレスクロマンの世界に入り込んだと思った。大胆さと勇気と知謀に長けた闇の天才と出会ったとすら思っていた。男が求めるままにセックスに応じ、それも自分がとてつもない悪に囚われてしまったからだと思い、全身が震えるほどの快感を味わった。

でもたちまちのうちに、そんなのは単なる思い込みに過ぎなかったことが分かった。男は軽犯罪者以上の何者でもなかった。つまらない騒ぎを起こすのがせいぜい、よく言って小悪党、はっきりいえば口先だけの迷惑な小物だった。あなたを助手席に乗せて、誰から借りたのか知らないがコブラとかいうクルマを走らせ、アクセルを踏み込めるだけ踏み込んで、湘南から箱根にかけての道を走っていたあの時も、男は軽口をたたき続け、あなたは男の正体が分かっているが失禁しそうなスピードと呪文のような男の言葉に惑わされ、下着を濡らすほど男のことが好きだと思いこんでいた。

そしてクルマはスピンし、助手席側からガードレールに激突し、ご丁寧なことに跳ね返ったところで対向車と激突した。これもやはり助手席側から。生き残ったのは男ひとりで、しかもそれは夜間の交通量の少ない時間帯で、誰も目撃者がいなかったから、男は受けるべき重罰を受けることなく、わずか数年で以前と同じ暮らしを再開することになる。その大事故すら男にとっては時効の話のひとつに過ぎないのだ。

けれど一つだけ変わったことがある。男は毎月の命日にあなたの墓前に姿を現し、時効の話をするようになった。そしてそれ以外の時にはそういう話をしなくなった。墓前に花を置き、線香に火をつけ、墓石と周辺を清め、ひとわりくだらない軽犯罪の話をする、青い顔をして呟き始める。「来月もここに来れますように、来月もここで話せますように」と。

月ごとに病的にやつれていく男を見ながらあなたは思う。何度でもおいでと。永遠にここに通り続け罪を告白し続けるがいいと。自分が時効だと言っている全ての罪を背負い続けることになるがいいと。だから何度でも通っておいで。もはや他のどこでも口にできない時効の話をしなから、思い知るがいい。時効なんてないことを。時はお前の内側をむしばむ病を決して癒すことはない。

(「時効」 ordered by エルスケン-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブックログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただけると大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんが。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

時効の話

<http://p.booklog.jp/book/39854>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/39854>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/39854>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.